

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成21年6月4日 (2009.6.4)

【公開番号】特開2007-31714(P2007-31714A)

【公開日】平成19年2月8日 (2007.2.8)

【年通号数】公開・登録公報2007-005

【出願番号】特願2006-203477(P2006-203477)

【国際特許分類】

C 0 9 C 1/00 (2006.01)

C 0 9 C 3/08 (2006.01)

C 0 9 C 1/34 (2006.01)

C 0 9 C 1/36 (2006.01)

C 0 9 C 1/24 (2006.01)

C 0 9 C 3/10 (2006.01)

C 0 4 B 14/02 (2006.01)

C 0 4 B 28/02 (2006.01)

【 F I 】

C 0 9 C 1/00

C 0 9 C 3/08

C 0 9 C 1/34

C 0 9 C 1/36

C 0 9 C 1/24

C 0 9 C 3/10

C 0 4 B 14/02 A

C 0 4 B 28/02

【手続補正書】

【提出日】平成21年4月17日 (2009.4.17)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

1 つもしくはそれ以上の無機顔料および 1 つもしくはそれ以上の有機助剤を含む顔料 / 助剤組合せ物であって、

建材カラー試験に従って、助剤が使用されずに、用いられる顔料を基準にして

・ D I N 5 0 3 3 および D I N 6 1 7 4 に従って C I E L A B 単位で測定された、1 . 5 以上、特に 1 . 8 以上の彩度差  $C_{a b}^*$  および / または

・ 1 0 8 以上、特に 1 1 0 以上の相対的な色の濃さ

を有する顔料 / 助剤組合せ物。

【請求項 2】

従来法で製造された無機顔料が、少なくとも 1 つの有機助剤と混合され、かつ前記混合物が場合により乾燥されるおよび / または粉碎されることを特徴とする、請求項 1 に記載の顔料 / 助剤組合せ物の製造方法。